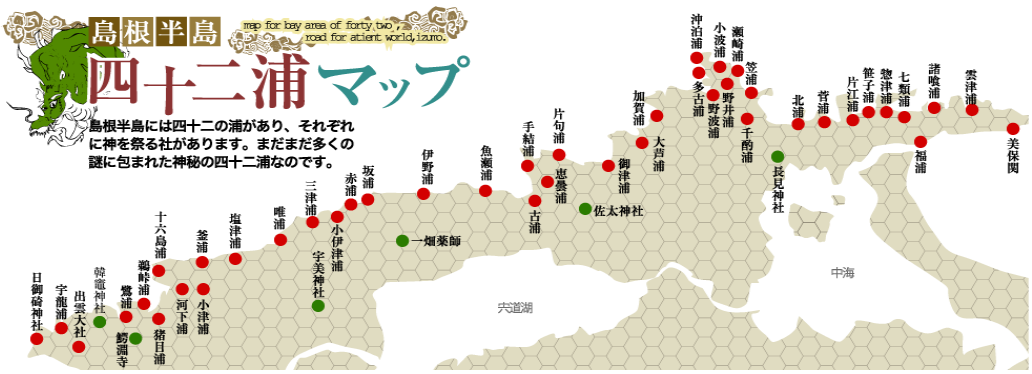
歴史・文化サイトカード

通しNo.	2-A-1	更新日	2025/2/10
サイト名	潮汲(しおく)みをしながら日本海側の浦々を巡る～島根半島四十二浦(ししじゅうにうら)巡り		

基本情報

区分	□有形　□無形　☑その他	所在地	島根半島沿岸部 (出雲市大社町日御碕～ 松江市美保関町美保関)
管理団体／モニタリング	島根半島四十二浦巡り再発見研究会	留意点	

位置図



サイトの解説

歴史・文化

起源は不詳ながら島根半島には、西側の出雲大社から東側の美保神社までの沿岸に点在する四十二の浦々の海水を少量ずつ汲んで所在する神社を参拝しながら巡り、一畑薬師に汐水を奉納し、満願成就を祈願するという巡礼的な信仰習俗が古くからあったと言い「四十二浦巡り」あるいは「四十二浦の汐汲み」と呼ばれていたという。

この信仰習慣を島根県の歴史、精神文化、今日の観光振興の財産として再発見しようとする動きがあり、「四十二浦巡り」の復活を提案された関和彦氏に「四十二浦巡り」の研究座長を、大谷めぐみ氏に副座長を依頼し、四十二浦巡りの研究と普及事業を展開することとして「島根半島四十二浦巡り再発見研究会」が2010(平成22)年3月14日に設立した。

研究会では、四十二浦の起源、行事、伝承や島根半島周辺の民間信仰など地域の情報を収集し研究するとともに、研究会、講演会、現地調査、バスツアー、ガイドブック・マップや、年3回発行の広報誌、ホームページ(http://42ura.jp/)などにより四十二浦を紹介するなどの活動を展開している。

埋もれている信仰習慣を、島根県固有の個性ある海岸地形と風土に結びつけて掘り起し、今日的価値を見出して地域振興資源として再生させる試みである。

地形・地質、生物・生態等

東西67kmに広がる島根半島の日本海沿岸にできた入り江や小規模な湾のなかで、集落がある42ヶ所が巡りの対象となっている。日本海の形成期に、南北方向から力を受けた地殻が東西方向に断層や褶(しゅう)曲を形成する地殻変動が起こった。東西に延びる島根半島の形はこの地殻変動によるものである。また、火山噴出物を伴って大きく変形した地層は、日本海側と宍道湖中海低地帯側で山地の形が非対称になっている。半島東部は境水道側に稜線があり、半島西部は出雲平野側に稜線がある。反対に半島中部は日本海側に稜線がある。このような半島の南北に非対称な地形からリアス海岸が半島の東西に形成され、半島の中部は入り江の少ない岩石海岸となっている。集落もこの地形に規制されており、集落の数は海岸距離1kmあたり、西部が0.65、中部が0.34、東部が0.71である。十六島から古浦までの中部は東部の1/2しかない。このような浦ごとに形成された集落は、それぞれ独自の風習を生んだ。人々の生活がいかに自然の影響を受けているかを示すものとして興味深い。

写真・図等

塩津浦　石上神社

十六島浦　許豆神社

参考文献